

埼玉新聞 2009年5月13日【1】

予想しえぬ始まり

病の旅路

病床でつづる癒患者の報告



元富士通副会長
鳴門 道郎

元富士通取締役副会長で現在トヨタIT開発センター会長などを務める鳴門道郎(なると・みちのり)氏が三年前、悪性リンパ腫という血液の癌(がん)と診断された。長年にわたる富士通の海外戦略の立案、海外人脈交流などで活躍し、また伊集院丈のペンネームで「雲を掴め」「雲のはてに」などの小説も執筆する小説家でもある。「癒患者」として病床から心の変化を描写してもらった。(次週からは毎週水曜日、生活情報「医療・サイエンス」のページに掲載)

△状態にして強力な磁力に
よりのシリコンをウェハーに
打ち込む装置を開発製造し
ていた。
成田からワシントンダ
ラス空港へ、そして車でピバ
リー、ピーパーティーとい
う東部ニューイングランド
の街に行く。美しい丘に工
場があった。
二〇〇七年三月のこと
ある右胸に蟻に刺されたよ

うな米粒大の赤みのある痕
ができた。これがその後、
自分の生命に重大な影響を
及ぼし苦しむ運命の始まり
であることは微塵も予想し
なかった。
五月の役員会の頃は二カ
月前の米粒状の赤みはピン
ポン球を割った程度に成長
していた。ホテルに到着し
て、分厚い資料を読み始め
た時、心臓に激痛を覚え椅
子から転げ落ちた。
帰国後直ちに都内大病院
の皮膚科に行き診断しても
らった。
診察した医師は「四ミ
リ、四ミリの肉片を切除し、
生体検査にまわした。そこ
で判ったことは悪性リンパ
腫」という血液の癌(がん)

とだった。
最近の癌の死亡率が高
く、新聞の家庭欄にも癌の
知識、特に予防が解説され
ているが、その中でも悪性
リンパ腫というのは派手に
解説されているので読者の
方々もご存知の方がおられ
ると思う。
この病気は不治の病であ
る。抗癌剤の研究は日進月
歩であるが、やはり不治の
病である。
血液中の癌細胞の増殖が
速く身体のごくどこでも腫瘍
を発生させる。全く癌側の
自由である。
腫瘍の発生部位が脳内で
あったり心臓であったりし
た場合、患者の機能障害は
大きい。

三年前、私はポストン郊 業の役員をしていた。
外にある半導体製造装置企 この会社はイオンをビ

病の旅路

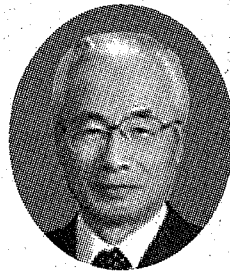
【2】

病床でつづける癌患者の報告

二〇〇七年三月に私を襲った癌(がん)は右乳頭の上表皮・腋上心臓であった。

特に心臓には上下からピストルの弾丸のように三カ所、内部に喰いついていた。その一つは冠動脈を押さえていた。リンパにはB-セル、C-セル、N-セルというような細胞があるが、私の場合はB-セルである。その後変形した。

癌の治療には切除、放射線



元富士通副会長
鳴戸 道郎

化学療法の三種類の治療があるが、私は化学療法を選択せざるを得なかった。大量の抗

なる。食塩水、ブドウ糖と共に抗癌剤は腕の静脈を通じて流入して来る。

恐ろしい再発

癌剤を点滴するのである。

素晴らしい特効薬があった。これが効果があった。腫瘍は急速に収縮していった。

毎日天井を見ながら点滴を受けていると気が狂いそうに

二〇〇七年発症の場合は百十日間入院し寛解(状況が小康状態)となり退院した。二〇〇九年二月、再発した。恐ろしいことだ。

ある日、身体のバランスを

失い、家中を駆けまわった。家内が腕を押えて付いてきたが最後はトイレットで転倒した。口から泡を吹き、涎がタラタラ出ている。

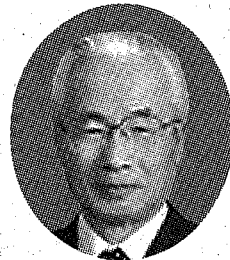
病院でMRIを撮った。見事に頂頭葉にピンポン球の腫瘍があった。脳内に出現したのが大きな敗因である。現在これを化学療法で溶解する治療を受けている。

【おわびと訂正】13日付一面「病の旅路」第一回で、筆者の名前の読みは「なると・みちお」氏の誤りでした。また著書の「雲のはてには」の果てに「です。おわびして訂正します。」

病の旅路

病床でつづる癌患者の報告

【3】



元富士通副会長
鳴戸 道郎

二月中旬は腫瘍が成長し、正常な判断が出来なくなつた。数字を書くと数字の桁がめっちゃくちゃである。

家内が確定申告に苦勞した。税務署に行き、「夫がおかしくなつてしまったので助けて下さい」とお願いしたところである。税務署員が親切に助けてくれた。私は確定申告の桁数が読めない。薄っすらと窓枠のようには見えな

のだ。家内は「あなたしつかりしてよ」と言つて泣いた。

抗癌剤と副作用

である。抗癌剤を静脈に注入すると白血球の数が下がる。白血球が減少すると免疫力が

若い税務署員は二日にわたつて家内とともに外国から送られてくる謝礼金に関する手紙を辞書を片手に解釈に暮れたといふことだった。

化学療法での問題は副作用

低下し、常在する細菌に感染する機会が増えるのである。

抗癌剤を注入してから数日後にこの減少が起きる。十日間位継続する。病室の入口には「消毒」の張り紙が張られる。

て天井を向いてボンヤリしている以外に方法はない。

人間の身体は定期的に入れ替わる。身体の内部には生まれ変わった新しい細胞、皮膚は古い細胞である。抗癌剤は増殖している癌細胞と若く正常な増殖細胞の見分けがつかない。とにかく増殖する細胞を破壊しつくすのである。

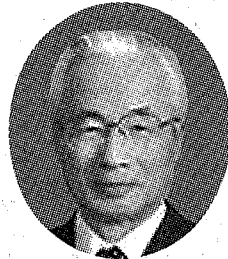
また、癌が崩壊すると尿酸等々になつて尿と共に排出される。

これを上手に体外へ出すためには点滴をする。ステロイドはリンパ腫を減らす副作用があり、多糖化で、インスリンを打って糖尿病を防止する。

病の旅路

病床でつづる癌患者の報告

【4】



元富士通副会長
鳴戸 道郎

話は全く変わるが、日本の製造業が衰退する中で埼玉県に元気でユニークな会社がある。UMCエレクトロニクスである。

前身は内山製作所というこの会社は究極のQCD(品質、コスト、納期)を目標としている。この会社の社長の内山茂氏は大人物である。

病院の朝の回診が終わったところで内山社長に電話をする。私が「幸せですか？」と

聞くと「ハイ。幸せです」という答えが返ってくる。内山氏は私の電話の声で病状が

病状、電話の声で

判ると言っている。

内山茂、内山尚男、内山修の3人兄弟が貧しいドン底から這い上がって成功させた会社である。幸い内山茂氏の長男である茂樹専務が人並みは

ずれた経営力を持っている。私は富士通である程度成功したが、海外の社員2万8000人の老舗を買収し、米国

の会社やカナダの会社の役員にスカウトされ30分も観察していれば外人の心の中まで読み通す洞察力を鍛えてきた。日本より海外で価値を認められている内山茂樹氏には才

能がある。世界を驚かせる最先端の会社が埼玉から輩出されることを願っている。

今年2月に発症した悪性リンパ腫は脳の中に癌の塊を作ってしまったのは大失敗である。脳内の腫瘍を溶かすには前回の特効薬だけでは有効でなく、8種類の強力な抗癌剤を使用している。

読者もご存知の通り、点滴は腕からプラスチックの針を静脈内に入れ、上から薬液をポトポト、チューブを通して落とす。しかし人間の血管というものは何回も針を刺していると固く、古いゴムホース状になり使えなくなる。私

の場合は殆んどどの血管が使用困難になってしまった。

病の旅路

病床でつづる癌患者の報告

【5】



元富通副会長
鳴戸 道郎

「マ」の意味が通じない。20代の若者では「死語」なのだろう。それから手術室の中で看護師が尿瓶を探したが無いのである。手術中に排尿をする患者は沢山いる筈だ。その人たちは緊張のあまり出ないものだ。

医師は簡単に「不治の病」を宣告するが最近では遺伝子の研究が盛んで「ソックリ人間」だつて作れる時代だ。牛の「安福号」だつて有名な話じゃな

い。幹細胞、ES細胞、iPS細胞は臓器の再現まで出来るようになった。米国帰りの若い医師たちが集まって私をモルモットにして再生医療をやりたいというプランがあった。私は乗り気だった。

血液を造るのは骨髓である。骨髓液を取り、その中の幹細胞を抽出し遺伝子の組替えを行い、体内に戻すというものである。

この実験は大失敗に終わった。親がくれた遺伝子の方が断然強いのであった。

現在日本の癌治療の大先生方は癌の発生は人間が持つている抵抗力以上にストレスがかかった時に癌が発生するというストレス説が主流なのである。

しかし如何なる大量の抗癌剤もキャップを開ければシャワー流し込める。私は決心して手術を受けることにし

再生医療の実験は失敗

ある。

降参した。

2月のある日医師から提案があつた。右首からカテーテルを3本静脈に打ち込みたいと言つ。カテーテルには参つた。顔を24時間左に向けていなくてはいけないのだ。そんな格好ではとてもじゃないが夜は寝れない。私は2週間で

これには随分考えさせられた。プラスチックのキャップが静脈から外れたらどうするのか。ゴルフが出来なくなる。それが心配である。

医師から新しい提案があつた。胸には鎖骨の上部あたりから太い静脈が1本流れている。それを中央静脈という。

手術は1時間半を要した。手術中、不謹慎にも私は尿意をもよおした。医師に「あと何分で終るんだ？」と聞いたら「30分」と言つ。私は「タシム」と言つた。彼は「タシム」

を宣告するが最近では遺伝子の研究が盛んで「ソックリ人間」だつて作れる時代だ。牛の「安福号」だつて有名な話じゃな

い。幹細胞、ES細胞、iPS細胞は臓器の再現まで出来るようになった。米国帰りの若い医師たちが集まって私をモルモットにして再生医療をやりたいというプランがあった。私は乗り気だった。

病の旅路

【6】



元富士通副会長
鳴戸 道郎

病床でつづる癌患者の報告

状態はよく分かった。

右側にあるので左側に障害

がある。言葉が少しおかしい。

しかしある時、医師がつま

抗癌剤が届きにくいものらしい。

腫との闘いではない。腫瘍が

できた時、当該部位の機能を

どれだけ保全するかである。

病はどの病と闘つか、病の

どの部分と闘つか、目標を

決めて闘うことが必要であ

る。

目標を決めて闘う必要

知らせに行つた。

2時間くらいいたって、ハイ

ヤーの運転手さんに起こして

いたたいて、赤坂にあるM病

院でMRIを撮ってもらっ

た。見事な腫瘍である。脳の

自分の場合は不幸にも腫瘍が

右側頭部の脳の中にできた。

これが左神経をマヒさせ左側

の頬(ほお)の動きに影響し

ている。

そこで治療のために都内の

い方法を発見したのだ。おか

げで今は急速に回復してい

る。MRI撮影で縮小が確認

されている。

首から下の左半身には何に

も影響はない。手も脚も正常

私は悪性リンパ腫と闘って

いるのではない。治療におけ

る第2次加工物もたらす機

能障害と闘っているのでは

もよいのだ。

不覚にも私の場合、右側の

頭頂部に4センチくらいの腫瘍が

突如出現した。朝、寢室を出

ると身体のバランスが取れな

い。家中を走り回ってトイレ

悪性リンパ腫というものは

どこに腫瘍(しゅよう)がで

きるか分からない。リンパ球

が身体中を循環しており、癌

(がん)側の全く自由なので

ある。当方の都合などどうで

もよいのだ。

知らせに行つた。

2時間くらいいたって、ハイ

ヤーの運転手さんに起こして

病の旅路

【7】

病床でつづる癌患者の報告



元富士通副会長
鳴戸 道郎

癌(がん)にかかった場合は完治するということはほとんどない。それは外から感染するものではなく、むしろ自分の内部にある遺伝子の問題だと私は思っている。

癌の治療は部位切除をするか、放射線で焼くか、化学療法は多数あり、種類の薬剤

を投与することであり、抗癌剤は多数あり、種類の薬剤

化学療法というのは抗癌剤を投与することであり、抗癌剤は多数あり、種類の薬剤

7日目からは白血球の数が減少し始める。これは抗癌剤

最近では外部からのストレスが、その人が持っている抵抗力を超えた場合、癌が発生するとい説がある。

法で根気よく繰り返すかの3方法を考える。私の場合は前述の通り化学療法を選択せざるを得なかった。

を組み合わせる。各病院で異なる。私の場合は前述の通り化学療法を選択せざるを得なかった。

の最大の副作用である。それから10日間ぐらいは大変な状態になる。

健康な人は3500~9200程度である。しかし考え方によっては、空気の悪い所を選んで座るので、頭を使い、健康的になった。言ってみてもなく、私は地下鉄や人込みを避けるようにしている。

抗癌剤の副作用

最近では外部からのストレスが、その人が持っている抵抗力を超えた場合、癌が発生するとい説がある。

法で根気よく繰り返すかの3方法を考える。私の場合は前述の通り化学療法を選択せざるを得なかった。

を組み合わせる。各病院で異なる。私の場合は前述の通り化学療法を選択せざるを得なかった。

の最大の副作用である。それから10日間ぐらいは大変な状態になる。

健康な人は3500~9200程度である。しかし考え方によっては、空気の悪い所を選んで座るので、頭を使い、健康的になった。言ってみてもなく、私は地下鉄や人込みを避けるようにしている。

病の旅路

【8】

病床でつづる癌患者の報告



元富士通副会長
鳴戸 道郎

めの資金であった。何とも悲しいけれども思い違いをしていた。

そこで延命について述べた。世の中では人命の尊厳から、また、倫理や人道からの延命処置を制約している。

て、医療費が急速に増え、社会が崩壊する。高齢者に対する医療行為について制限を設けるべきだ。姥(うは)捨て山などと感情的になるべきではない。

世の中では病が病を呼ぶとよく言われる。これは本当だ。今まで弱いところがあってもそれを人間が抑えてきた。

いつものことについて少し考えてみたい。自分の考えは、社会とはこの国では許されない。

私は「つあるべきではない」と思う。本人の意思が尊重されるべきだ。植物人間をつく

最近のどに浮腫が現れた。放って置くに危険だ。すぐに手術をした。成功した。

とここで話は変わるが死と

的復帰ができない場合は生きている意味がないと思う。サこのは、まさに、死と戦った

自分の場合は老後の金とい

つてはいけない。社会の負担が大変だ。高齢化社会になっ

医療行為に制限を

余裕のある人もない人も同じくらい医療制限を受けるべきだ。この問題は人口問題を放置してきたわれわれの責任だ。人口政策は国の基本政策であるはずだ。多方面からもう一度検討してもらいたい。死の床にある患者より。

(おわり)